

ヤマザクラ 2011 本プロジェクト 観楼会（2022年4月24日）のご報告

奥松島復興の会
事務局長 鈴木三男

観楼会、やりました！

去る2022年4月24日（土）に「第2回観楼会」を行いました。3月の植樹祭の折にも参加者から「植えた桜が咲いているのを見たいよねえ」との声が多く寄せられ、コロナ状況も「改善」したことから実現したものです。

第1回の観楼会は2017年の4月22日で、2014年3月の第1回植樹祭から3年後でした。このときは植樹した苗には未だ小さく、ほとんど花が咲きませんでしたので、むしろ宮戸島島内の自生の桜の観察会でした。あれから8年、この春は3年ぶりに第8回の植樹祭も行われ、トレイル公園や室浜団地に植えた苗が大きく育って、「この分だとずいぶんと花が咲きそうだ」と期待が高まっていたのです。

当日はこれまで植樹した場所を皆で一通り廻りました。一番期待されていたのは室浜団地でしたが、これは植樹祭の時の見た手違い、びっしりとあった芽はそのほとんどが実は花芽ではなく、葉芽だったのです。それでも赤い新葉が開きかけてずいぶんと艶やかな「新緑」風景でした。ここの植樹苗は生長が良くて樹勢旺盛で、来年こそはキッとたくさんの花を咲かせてくれそうで、実に楽しみです。

これまで植樹した中で一番大きく育っているのはやはりトレイル公園の東屋脇に植えた個体ですが、今年は花着きがとても悪く、ちらほらしかありませんでした。園路沿いに植樹した木々も立派に育っていて、こちらにはたくさんの花をつけている個体も多く、あと数年後には県道を走る車からも桜並木がはっきりと分かるようになることでしょう。



宮戸島の島内至る所にヤマザクラが咲き誇る

「花見の宴」は史跡公園を見下ろす台地の四阿脇で開かれました。ブルーシートを揚げ、一杯に花をつけた植樹苗を見上げ、満開の桜と緑の松に彩られた大高森を望みながら、もう時期外れでつくっていないというのをムリにお願いした矢本の和菓子屋さんの桜餅とペットボトルの御茶で、青空の下、宴が始まりました。中にはこっそり持ち込んだ御神酒を利く人もあり、ここには更に植樹して大高森から一杯の桜が見えるようにしようなど、あれこれ桜談義に花を咲かせました。

宮戸島には3種類の桜があります。ヤマザクラ2011本プロジェクトのヤマザクラが一番多く、遠景で見るとこれにカスミザクラが混じっていますが、この両者の区別は遠目ではムリで、枝葉を手にとってみないと分かりません。カスミザクラはヤマザクラに比べて一般に花がちょっと小振りで、色は白みが強く、若葉も緑色が混じった「かば色」で、ヤマザクラより少し後に咲く、という感じです。もっともヤマザクラ自体、大変変異に富んだもので、花はソメイヨシノより一回り程大きいものからやや小さい位のもの、色も濃い桃色からかなり白いもの、若葉の色も鮮やかな紅色からかば色、そして花期も個体により大きく幅があり、ソメイヨシノに未だ花びらが付いている頃から咲き出すものから里桜類（いわゆる八重桜）が咲き出す頃まで、と千差万別です。もっとも、花が大きくて白く、若芽が緑色の個体は次に述べるオオシマザクラとの交雑由来のようです。



台囲のオオシマザクラの大木



純白で大きなオオシマザクラの花

オオシマザクラは伊豆七島が本来の自生地と言われますが、今では分布域を遙かに超えて本州に広く分布しています。宮戸島のオオシマザクラは主に薪炭材用に移入されたものと言われます。成長が早く、樹勢が強くて伐採してもひとこ生えが旺盛に出るなどの性質によるもので、ほぼ全島で燃料として使われてきた結果、今ではどこにでも生えている「桜」です。たきぎの他、葉が大きく香りが良いので桜餅に使われ、また花も大きく純白で鑑賞価値がある「有用な桜」なのですが、困ったことは本来の自生であるヤマザクラと容易に交配して雑種をつくることで、結果として、現在では「純粋なヤマザクラ」というのは大変少なくなっています。「ヤマザクラ 2011 本プロジェクト」は北限の地にあるヤマザクラを後世に残し、宮戸島を「桜と松の島」にしようというものですから、ちょっと（ずいぶん？）困っている、と言うのが本音です。ただ、分布を除けばオオシマザクラはやはりそれなりに美しい桜であることは間違いなし。この島からオオシマザクラをなくするというのはどうかと思うし、またその旺盛な性質からはそうしようと思ってもとてもムリなことだろう。ヤマザクラ、カスミザクラ、オオシマザクラの「共存」がこの島のありかたでしょう。松尾芭蕉が松島を訪れたのは初夏で、残念ながら山桜と松の松島を見てもらえませんでした。もし、この季節に来ていたらどんな句を残してくれたでしょうか。その光景を脳裏に浮かべて「山桜 2011 本プロジェクト」、頑張りましょう。

なお、後付けのような報告になってしまいましたが、翌 25 日には育てているポット苗の移し替えを宿泊組と資料館スタッフ総出で行いました。これまではプランタに播種→翌年発芽したものを小ポットに植え替え→翌年（3 年目）中ポットに植え替え→4 年目に苗畑に植え付け→5 あるいは 6 年目に苗出し、とやってきましたが、ここ 3 年間、コロナのため植樹はもちろん、苗の植え替えもままならない状態にありました。その結果、苗畑では苗が大きくなりすぎ、掘り採る時に大きく根を損傷してしまうので活着が極度に悪い、と言う状況です。そこで、方法を次の様に切り替えてみようということになりました。プランタに播種→翌年発芽したものを小ポットに植え替え→翌年（3 年目）中ポットに植え替え、までは同じですが、4 年目にさらに大きいポット（口径 36cm）に植え替え、これで大きく育てて 5, 6 年目に定植する、と言うものです。大きいので全部土を入れたらとても持ち上がりませんので 2/3 くらいとし、苗が育ったら植栽場所に穴を掘りポットから外して穴にすポット入れるだけ、と言う簡便で活着が良さそうな方法です。果たして結果や如何に？来年の植樹祭が「楽しみ」です。

